



ノーリフティングケアの取り組み ～黒歴史からの脱却～



社会福祉法人 飯盛会
地域密着型特別養護老人ホーム
サンガーデン

施設の概要

【入所定員】 (2024年12月15日現在)

入所	29名
短期	10名
平均要介護度	4.31

【職員数】

*介護職員	合計:	17名
(内訳)	男性:	6名
	女性:	11名
技能実習生:		2名
看護師:		4名
事務職その他:		3名

*飯盛山のふもとで近くには流鏝馬で有名な飯盛神社があります。周りは四季折々の花が咲き、自然が多いとても静かな環境。

*施設裏には同法人の就労支援の畑があり、ジャガイモやサツマイモの収穫を行い調理レクリエーションを行っています。

*終の棲家として慣れた環境・職員の中で、穏やかで自然な看取り介護を行っています。2024年度4月から12月15日現在まで9名の方の看取り介護をさせていただきました。



お花見 おはぎを食べながら

サンハウス就労畑

社会福祉法人 飯盛会	<障がい者福祉サービス>	障がい者支援施設: サンハウス
	<高齢者福祉サービス>	障がい福祉サービス事業所: サンハウス通所生活介護、サンハウス就労支援 サンサンホーム・ひかり・ハーベスト・特定相談 地域密着型特別養護老人ホーム サンガーデン

ノーリフティングケアの歴史

① 移乗リフトとの出会い

2000年

当法人の障がい者支援施設は開設当初から各居室に天井走行リフトを設置。装着等に時間を要し「人が抱える方が早いよね。機械は面倒」ということで使用せず。お金をかけて設置したリフトは、いつしか宝の持ち腐れに...

② サンガーデン 床走行式リフト導入

2020年

研修に参加し、「抱えない事で職員の腰痛を減らすことが出来、ご利用者様の身体の拘縮予防に繋がる事が出来る！」ということを知る。

2021年

床走行式リフトが施設にやってきた!!

～その他～

低床ベッドの導入やスライディングシート購入等職員の腰痛予防には務めていた。



③ 職員の意識



移乗リフト等を使用してはいたが...

- ・操作手順が面倒
- ・抱える方が早い
- ・利用者さんが嫌がるから
- ・対象者がいないので手順を覚えるのが面倒
- ・スライディングシートってそもそも何?
- ・取りに行くのが面倒
- ・抱えるのがつらいご利用者様いるけど使用していいと言われていないから使えない etc...

- ・リフトの使用や抱えない介護の必要性についての理解が不十分。
- ・上司からの説明やただリフトを使っただけの声掛けでは、浸透し受け入れてもらえない。



指導も難しい

伝達も難しい

移乗リフトに触れる機会の差・理解力や意欲の差があり、移乗リフトが定位置から動かない日々が続く時もあった。

④ 福岡県ノーリフティングケア普及事業参加



直面している問題改善に取り組むも同じことの繰り返し...
☆正しい知識と技術をもって職員が同じレベルで対応できる施設にしたい!
☆職員やご利用者様にとってもウィンウィンの状態にしたい!

以前の「宝の持ち腐れにしない」と心に誓い福岡県ノーリフティングケア普及事業に申込みを行った。

決定!



研修会に参加！するが…なかなか目標達成できない

研修の時は出来ると思って計画を立てたが、他にもすることがあり計画通りに進まない

またもや

計画通り進まない...

	[目標値]	[実施値]
ダーが担当利用者の動画撮影が終了	60%	0%
一されているかのチェックシートの作成	20%	0%
時、場所を決定する	20%	0%
	<達成度>	0%



※モデルの利用者様が受診や入院等で動画撮影が難しい環境であり、他のマニュアル等の作成で介助方法の統一まで行うことが出来なかった。



でも職員にノーリフティングケアを知ってもらいたい

しっかりとPDCAサイクルを学び、解決していくぞ！



P 委員会 発足

- *施設長： 統括マネージャー
- *看護師： 健康管理
- *介護士： 教育・技術指導、リスクマネジメント、福祉用具点検
- *ケアマネジャー： 個別アセスメント・プランニング
- ☆月1回委員会を開催：サポートメンバーとしてユニットリーダーも参加

マニュアル作成

- マニュアルそのものがなく職員へ委員会設立等の説明も口頭説明だけだった。
- マニュアルはファイリングし、職員全員が見える場所に設置。

ノーリフティングケアマニュアル

1. ノーリフティングケアとは

2. ノーリフティングケアの目的

3. ノーリフティングケアの目標

4. 委員会の役割

5. ノーリフティングケア委員会の構成

6. ノーリフティングケア委員会の役割

D 職員教育

- ①月に1回職員が集まる会議にて技術研修
- ※テキスト（緑本）に沿って研修

起床介助



- ②欠席職員には後日サポートメンバーより個別研修



サポートメンバーへ

- ※技術指導担当職員からサポートメンバー（ユニットリーダー）へ技術研修内容をマンツーマンで指導

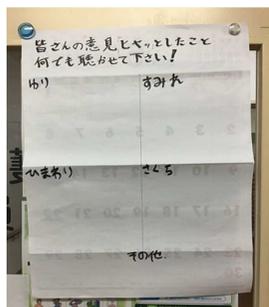


日常においても職員の動きに目を光らせて技術を



気づきシート で業務改善

- 階の出入りに思った時に書き出せるように掲示

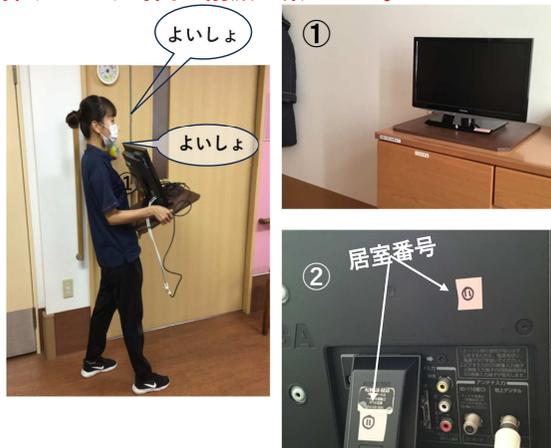


- 毎月の気づきを “見える化”

気づき	分野	原因	実施すること	実施期間	実施状況・評価
			-		
			-		
			-		
			-		
			-		
			-		
			-		
			-		
			-		

- * 日常業務における改善例
- ショートステイで居室のテレビを
- ① テレビは使用の有無関わらず居室を定位置に変更
- ② テレビとリモコンに居室番号の数字を貼り明確化した。

☆ 持ち運びによる職員の身体的負担軽減。
☆ 定位置を明確化することにより、物を探すという時間の削減に繋がった。



C

腰痛 調査結果

		6月	12月
あり	常に痛い、またはよく痛みがある	3	3
	時々痛い	9	6
なし	痛みまでは感じないが腰が疲れやすい	2	3
	全く痛まない	4	5



腰痛保持者が12名から9名に

	6月	12月
ほとんどがそう	6	1
一部あり	11	13
ほとんどない	1	2
ない	0	1

日常業務おいての持ち上げや抱え上げ介助においても
“ほとんどがそう”6名から1名に

A

今後の腰痛調査の役割

腰痛アンケートの中に腰痛だけでなく、

- ① ケアの際に誰のケアが負担に感じるか
→ 個別アセスメントプランニング
- ② 負担を感じる場面の介護内容
→ 職員技術指導
- ③ 身体疼痛を感じる場面
→ 環境整備及び福祉用具購入

の項目を追加し、結果を委員会で情報共有していく

気づきシートの役割

- ① 気付いたことをすぐに伝えられるように
→ 効率の良い伝えかたの模索
 - ② どのように気づきを伝えてもらえるか
→ 場所等の選定
- 職員の気づきを大切にし風通しの良い職場環境を作る

今後の目標

- ① 職員教育：継続して技術指導を行い風化を防ぐ
定期的研修会を開催、1人1人が知識・技術を身に付ける事が出来る
- ② 職場改善：気づきシートの在り方を模索
現場職員の声を聞き、働きやすい職場になるように対応していく
- ③ 健康管理：持ち上げ抱え上げ介助を減らす
入浴介助の改善・・・環境整備、移乗時の介助方法・手順の見直し
身体負担のかかる介助・・・福祉用具導入の検討